

令和7年度 東永谷地域ケアプラザPDCAシート\_公表用（事業計画書、事業報告書、事業実績評価）

—総括表—

◆ 事業計画

地域の現状と今後の方向性

担当地域は、大久保最戸地区、永谷地区（東永谷1～3丁目）になります。いずれも起伏の多い地域で、移動や買い物の支援が必要な高齢者等が多くなってきています。また高台周辺は昭和30年代後半から開発された戸建住宅の新興住宅地で、高齢者夫婦のみの世帯や単身世帯が増加しており、今後は空き家問題の増加も予想されます。コロナ禍が長く続いたことで外出の機会が減り足腰が弱った方の介護保険利用が増えるなどの傾向も見られています。

今年度は第5期地域福祉保健計画（令和8年度～12年度）の策定の時期にあたるため、地域の皆様とともに次の5年間を見据えて地域における現状や課題、解決策等について考えるなど支援を行います。

※新ケアプラザの開設に伴い、永野地区（上永谷1～3丁目）の担当は令和6年7月より移行。

今年度の重点的な取組

新規  
継続

—具体的な取組内容—

- 高齢者サロン「ひなたぼっこ」等の自主事業、また地域の体操教室等様々な機会を捉えて支援が必要な方の情報を収集、必要に応じて包括へとつなぐ。
- 見守り協力事業者の連絡会を開催し、見守り意識の啓発を行うとともに、地域と事業者のつながりも構築する。
- ひまわりホルダーやエンディングノート、見守り協力事業所等港南区独自のものについて、チラシ・広報紙・掲示板などを活用し、広く地域住民に周知する。
- 東永谷地区センターと協働で男性向け講座「メンズ倶楽部」を開催する。
- 昨年度の講座「東永谷の子どもの今を考える」参加者と継続して子どもの支援について考えるとともに、実際のニーズを踏まえ、具体化に向けて取り組む。

◆ 事業報告・事業実績評価

振り返り

- ・「ひなたぼっこ」を通じて、気になる方の様子を見守っており、変化があれば包括へ繋ぎ、対応を行っている。
- ・見守り協力事業者の連絡会は開催出来なかったが、通信(広報紙)配付時にヒアリングを実施。必要に応じて地域へ繋げている。
- ・個別相談の中で、ひまわりホルダーやエンディングノート活用についての情報提供を行っている。
- ・地域の老人会やケアプラザの会場利用団体の依頼を受け、介護保険や認知症の説明とともに、エンディングノートについての説明会を開催した。
- ・東永谷地区センターとの協働で「メンズ倶楽部」を開催。単回での参加者が多かった為か、その後の活動には繋がらなかった。
- ・子どもの課題について検討する場を継続的に月1回開催。R7.11月には初のイベントを開催した。

区からのコメント

地域ケアプラザは誰もが利用できる施設、心配なことがあれば相談できる場所として、多くの方に知っていただく機会をもっていただき、ありがとうございます。今後も、地区センターとの合築という特性を生かして、様々な世代に親しんでもらえる施設運営に期待します。「第5期港南ひまわりプラン(地区別計画)」の策定にあたっては、テーマ別で検討を進めるなど、地域の皆さんとともに尽力いただき、ありがとうございました。

若年層向けに実施した認知症サポーター養成講座では、子どもだけでなく教員や親世代への理解促進が課題となったため、R8年度は取組の発展が期待される。南高校付属中学にはR8年度から主体的に開催し、今後はエリア内の他校にも段階的に働きかけ、認知症理解の拡大を目指していただければと思います。

虐待対応については、マニュアルに基づき、情報収集・アセスメントを行い、包括による直接介入を強化する必要があります。また、エンディングノート講座を通じ、意思決定支援や制度利用を次年度計画に反映することが求められています。

包括的継続的ケアマネジメントについては、包括的支援体制の強化に加え、インフォーマルサービスの情報を広く共有する工夫が求められます。民生委員・ケアマネとの継続的な交流により顔の見える関係を築き、困難ケースへの同行支援などを通じて連携と信頼を深めることが重要であると考えます。

介護予防ケアマネジメントについては、元気な段階から地域とつながり、状態が変化しても通い続けられる居場所づくりを進め、安心して参加・相談・役割発揮ができる地域づくりが期待される。また、インフォーマルサービスがケアプランに十分反映されていないため、好事例の共有など活用促進の取組が求められる。地域ケア会議については、地域ケア会議を協議体へ発展させ、具体的な取組につなげていくことが成果として期待される。また、認知症への偏見のない地域づくりを共有できたため、認知症理解を深め、地域住民と交流できる場（認知症カフェ等）の立ち上げが求められます。